



序

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-07-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小田切, 正 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/7632

序

1979年4月、養護学校の義務制が実施され、このことによって、すべての障害児に9年間の普通教育が保障されることになりました。この養護学校義務制は、障害児教育の歴史のうえで、一つの時期を画する重要な出来事ではありますが、多様な障害をもっている子ども、ならびに重度・重複化した障害をもった子どもの、教育を保障するには、まだまだ困難が横たわっており、課題も山積みとなっています。

なかでも、障害の複雑な要因をみさだめて、教育内容と方法をつくりだすことと、そのための条件や展望をあきらかにすることなどは、これからの大きな課題となりましょう。そして、これらの実践の一定の成果や、研究の動向を反映してですが、今日では教育学・心理学をはじめ、医学・社会学・福祉学など、各専門分野を総合的に動員した、構造的な研究体制の編成と、確立がつよくさげばれています。

1981年4月、本学に設置されました「情緒障害教育教員養成課程」(1年課程)は、このような障害児教育のあたらしい動きのなかで、とりわけ情緒障害教育、ならびに重度・重複障害教育の教員養成をめざして発足をみたものであります。この間、課程設置の諸準備、講座開設等にあたりましては、学内をはじめとして、教育関係、医学各方面の諸先輩、諸先生からいただきました懇切な指導と、専門的な助言は、筆舌につくしがたいはげましでありました。

こうした、あたたかいご協力をいただきながら学生の研究の指導にあたってまいりましたが、本年3月をもって、17名の修了生をはじめて送ることができました。この創設の1年間にいただきました御指導と、学生の学習は、今後、障害児教育におけるさまざまな制約や困難をのりこえ、子どもの発達に光をともし実践・研究となって発展するにちがいない、と確信いたしております。

本紀要は、修了生の研究論文の概要を中心に、学生の論文指導にたずさわった教官ならびに非常勤としてお手伝いいただいた教官の論文5編をもって編集したものでありますが、このなかから、修了生諸君のとりくみのあとをみていただけますとこれにすぐる喜びはありません。研究をまとめるにあたっては、じつに多くの関係者のご援助をいただきましたことを、誌上をかりて、衷心からお礼を申し上げますとともに、大方のご批判とご叱正をたまわりますことを願って、序といたします。

北海道教育大学旭川分校

障害児教育講座主任

小田切 正